# 令和４年度 第１回八戸市生活支援体制整備推進協議会 議事録

○日　　時　　令和 4 年 10 月 26 日（水）午前 10 時から午前 11 時まで

○場　　所　　市庁別館 8 階　研修室

○出席委員　　五十嵐 潤 委員、池田 右文 委員、大橋 正治 委員、中里 雅惠 委員
橋本 百子 委員、堀内 美佐江 委員、米田 政葉 委員
※吉田 郁子 委員は欠席

○事 務 局　　池田 和彦 福祉部長兼福祉事務所長、
工藤 浩範 福祉部次長兼障がい福祉課長、
館合 裕之 高齢福祉課長、江渡 聡子 地域包括支援センター所長、
島田 拓巳 主査兼社会福祉士、柏崎 雄介 主査兼社会福祉士
山口 誠 主査兼社会福祉士、

## 次第１．開 会

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

それでは、定刻となりましたので、ただ今より、令和４年度 第１回 八戸市生活支援体制整備推進協議会を開会いたします。

本日の会議でございますが、委員８名中７名の委員が出席で、過半数以上の出席となってございますので、「八戸市生活支援体制整備推進協議会規則」第５条第２項のとおり、会議が成立することをご報告いたします。

## 次第２．委嘱状交付

池田福祉部長兼福祉事務所長より、米田 政葉 新委員へ委嘱状を交付。

## 次第３．会長選出

会長の選出を行い、会長は池田委員に決定。

■池田会長

皆様、この度、会長に就任させていただきました池田右文と申します。若輩者ではございますが、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。皆様とこれからの八戸市の生活支援の整備をどのようにしたらいいか、いろいろなものを出していきながら皆様と考えていければと考えておりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 次第４．議事

■池田会長

それでは、議事に入らせていただきます。

（１）八戸市地域ケアシステム推進学生サポーター養成研修会の開催報告について、事務局より説明をお願いいたします。

### （１）八戸市地域ケアシステム推進学生サポーター養成研修会の開催報告について

■事務局（山口主査兼社会福祉士）

（１）八戸市地域包括ケアシステム推進学生サポーター養成研修会の開催報告について、説明させていただきます。お手元に資料１をご用意ください。着座にて、説明させていただきます。

毎年、ワークショップを開催する時に八戸学院大学に協力をお願いしております。目的としましては、ワークショップに参加する意向がある学生に対して、事前にワークショップの基礎理解を促すための本研修を実施することで、より能動的にワークショップに参加できるようにすることを目的に本研修会を開催しております。

開催場所としましては、八戸学院大学内の講義室をお借りして行い、参加条件としましては、八戸学院大学又は八戸学院大学短期大学部の学生であること、ワークショップへの参加意向を有すること、所属先のゼミの先生からのフォローアップを受けられることとなっております。フォローアップの内容としましては、特別な対応をゼミの先生に依頼するものではなく、学生へのワークショップの参加調整や学生がワークショップへの参加している様子を気にかけていただくものとしております。

今年度の受講者については、八戸学院大学 健康医療学部　人間健康学科　３年生５人となっており、研修概要の記載のとおり、研修を修了した全受講者に対して受講証明書を交付しております。

研修概要の中で７月 13 日に補講日を設けたのは、７月８日に体調を崩した学生が１人いたために、高齢福祉課職員が講師となり補講を行いました。

研修時に使用した資料は、別紙１～３のとおりです。事前送付しておりますので、資料の説明に関しては省略させていただきます。

本研修を修了したことにより、研修修了者は３年生が 10 人、４年生が５人の合計 15 人となっております。

以上で、資料１の説明を終わらせていただきます。

■池田会長

ただ今の説明に対し、ご意見・ご質問はありませんか。

学生が主体となって、活動に参加していただけることは、すごくありがたいことだと思いまして、生活支援体制整備事業は地域の高齢者支援センターが中心となっていますけれども、そこから学生が入って、市民の方が入っていくとすごく充実した形になると思います。米田先生はどうでしょうか

■米田委員

開催をお手伝いさせていただきました。例年は 2 年生も参加していましたが、カリキュラムなどの関係で 2 年生の参加者が今年はいませんでしたが、参加してくれた 3 年生の 5 名に関しましては非常に意欲をもって取り組んでくれ、これからこういった活動の場にどんどん出て行って活躍したいという意向を示しております。また、実際に活動に参加して

取り組んでいるので心強いと思っております。

## （２）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について

■池田会長

次に、（２）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、事務局より説明をお願いいたします。

■事務局（山口主査兼社会福祉士）

（２）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、説明させていただきます。

ワークショップは、年４回開催予定のうち、２回開催しました。

まず初めに、１回目に開催したワークショップについて、説明させていただきますので、資料２－１、資料２－２をお手元にご用意ください。

それでは、資料２－１について説明させていただきます。

日時は、令和４年９月３日土曜日、13 時から 15 時まで、場所は八戸市立東公民館ホールにおいて開催いたしました。

出席者につきましては、八戸学院大学の学生が６人、民生委員や町内会などの地域関係者が 12 人、合わせて 18 人に参加をいただきました。

開催概要としましては、「八戸市の高齢者に関する情報提供」をテーマとして市高齢福祉課職員が話題提供し、続いて「地域包括ケアシステムの解説」をテーマとして八戸学院大学の大木先生から話題提供をしていただきました。

続いて、アイスブレイクを行い、ここからは、八戸学院大学の米田先生に進行をお願いし、会場の雰囲気を和ませる目的として自己紹介を兼ねたレクリエーションを各グループワークのメンバー同士で行いました。

続いて、「東地区における高齢者の見守り体制について考える」のテーマとして、グループワークを行い、「東地区における高齢者の見守り体制の現状」、「課題の整理」、「課題の改善策」について検討し、各グループで意見交換を行いました。

意見交換の概要としては、

・高齢者宅を訪問して把握をしている。
・高齢者ほっとサロンを通じて見守りを行っている。
・敬老会における記念品の配付や独居の高齢者へ社協からの贈り物を届けることで安否確認をしている。

など民生委員、地区社協、ほのぼの協力員、高齢者支援センターなどによる見守活動や、

・日頃の生活の中での声がけにより、気になる高齢者を見守っている。

などの近隣住民からの取組や、

・緊急通報装置の活用
・宅配弁当や新聞販売店からの業務の中で把握した高齢者の異変の気づきによる見守り

などの地域における高齢者見守りの現状や、

・民生委員の高齢化、成り手不足の現状
・訪問を拒否され嫌がられる。

など対応が難しいケースの話もありました。

次のページに移りまして、

・高齢者が集まることで見守りをしていたが、コロナ禍で様々なイベントなどが中止になってしまった。
・見守る町内が広く、見守る人が少ない。
・引きこもりの高齢者を外に出すことが難しく、引きこもりによる健康面が心配。

などの課題が挙げられていました。

今後の取組としましては、東地区に新たに高齢者見守りネットワークを立ち上げようとする町内がありますので、その町内に対して担当地区である高齢者支援センター福寿草が

高齢者見守りネットワーク立ち上げに向けた協議を継続して行い、新規に立ち上がった場合は、その町内を参考例として高齢者見守りネットワーク立ち上げを検討する他の町内にも働きかけたいと考えております。

続きまして、ワークショップに参加された方からのアンケート集計結果について報告させていただきます。資料２－２をご覧ください。

当日参加された 18 人のうち 17 人の方からアンケート回答の協力をいただきました。

問１　「あなたは、どちらの地区にお住まいですか。」との質問に対しては、町畑が５人、旭ヶ丘が３人となっており、問２の「あなたは、何歳ですか。」との質問に対しては、70 代が４人、続いて 50 代、60 代が各２人となっております。

また、問３　「あなたの性別を教えてください。」との質問に対しては、男女各６人ずつとなっており、問４　「あなたが地域で行っている活動のうち最も長い活動を教えてください。」との質問に対しては、民生委員や町内会役員が多く、６年以上活動されている方がおられました。

問５　「ワークショップに参加した感想を教えてください。」との質問に対しては、地域関係者、学生ともに「参加してよかった。」の回答が多く、次のページに移りまして　自由記述では、地域関係者から、「学生の活発な意見を聞くことができ頼もしく感じました。」「対策を考える機会になった。」など前向き意見が多くあり、学生からは、「地域の民生委員からの話を聞くことができ、地域の課題と現状についての勉強となった。」など学生にとっては現場の声を直接聞くことができた学びの場となったようです。

また、問６　「ワークショップは今後も継続すべきだと思いますか。」との質問に対しては、「継続すべき」の回答が多く、自由記述では地域関係者から

・なかなかない機会なので、逆に回数を増やして欲しいくらい。
・コロナ禍が長引いて解決策が出ないものが多すぎる。

などコロナ禍でこれまでのイベントなどの開催が思うように進められなかった現状が伺われました。次のページに移りまして、学生からは、

・民生委員や町内会の方と話す機会がなかったので、良い機会になった。

など貴重な体験の場となったようです。

問７　「ワークショップの改善点があれば教えてください。」との質問に対しては、地域関係者からは、

・もう少し、一つ一つに時間が欲しい。
・具体的にどうするのかが、まだまだ。

との意見がありました。「高齢者の見守り体制について考える」との大きなテーマであったため、現状や課題に対する具体的な対策をまとめることは、時間がありませんでしたが現状や課題に対しては各グループともに情報共有することができました。

また、問８　「学生が参加したことについて思ったことを教えてください。」との質問に対しては、地域関係者から、

・若い人が参加することは非常に良い。
・学生も一緒に参加して議論したことは有意義であった。

などの意見がありました。実際に学生に対しては、グループワークの意見のとりまとめや各グループからの発表を学生にお願いしていたので、学生の積極的に取り組む姿勢が好感を持たれていたようです。

問９　「地域の方と接して思ったことを教えてください。」の質問に対して学生からは、

・温かい方々がたくさんいることが分かり安心した。
・地域ごとの課題や行っていることについて教えていただくことができた。良い機会になった。

との意見がありお互い良い関係性の中でワークショップが行われました。

また、問 10　「ワークショップに参加した地域の方々は様々な活動をしています。もし、地域の方から「協力してほしい」と言われたら、どう思いますか。」との質問に対して学生は、「協力したい」と前向きな意見が多くありました。次のページに移りまして学生からは、

・地域の情報がもっと欲しい。

など意欲的な姿勢が見られました。
　続きまして、２回目に開催したワークショップについて、説明させていただきますので、資料２－３、資料２－４をお手元にご用意ください。
　それでは、資料２－３について説明させていただきます。
　日時は、令和４年９月 17 日土曜日、13 時から 15 時まで、場所は八戸市立三八城公民館ホールにおいて開催いたしました。
　出席者につきましては、八戸学院大学の学生が３人、民生委員や町内会などの地域関係者が 19 人、合わせて 22 人に参加をいただきました。
　開催概要としましては、１回目のワークショップと同じ流れで行い、グループワークは、「三八城地区における高齢者支援について考える」のテーマで行いました。
　意見交換の概要の現状としては、
・駅やバスなどの交通の便が良い。バスでショッピングセンターに行くことができ、高齢者にとって買い物が便利である。病院も多い。
・市役所、公会堂、美術館、津波防災センターなどの公的機関が多く、他の地区に比べると運動場、スケート場、プールなどもあり環境が充実している。
・馬淵川沿いに遊歩道や公園があり、体を動かしている高齢者がいる。
・八戸城跡や南部会館など地域の中で歴史に触れる機会がある。
など生活環境が他の地区と比べると整っている意見が多く聞かれました。
　課題としては、
・コロナ以降、集う機会が少なくなった。少しずつ、地域のイベントは再開し、人が集まるようになってきたが、新規の参加者や男性が集まらない。
・コロナ禍で家にいる時間が長くなったせいか、以前に比べて元気のない高齢者がいる。
・一人暮らしの男性高齢者は、集まりに参加するのが苦手で、趣味が無ければ引きこもりがちになりやすく感じる。
などの意見が聞かれました。
　次のページに移りまして、課題の改善策としましては、
・家に閉じこもりがちの高齢者を外出する機会をつくる。
・日頃の生活の中から、顔の見える関係をつくり、近隣住民と民生委員と高齢者支援センターで連携する。
などの意見が聞かれました。
　今回のワークショップと関連した今後の取組としましては、ワークショップを開催した担当地区である高齢者支援センターみやぎの令和４年度の主な重点活動及び目標の実践的な取組として、社会福祉法人みやぎ会が地域貢献として三八城地区住民を八食センターへ連れて行き、そこで介護予防教室の開催と八食センター内での買い物を行う企画がありました。
　そこで、本事業と連携をして何かやれないかと高齢者支援センターみやぎと相談した結果、次のような取組を行いました。
　８月 29 日月曜日 社会福祉法人みやぎ会が、まずは約 20 人の三八城地区民生委員を対象とし、八食センターにおいて「八笑ウォーク」を試行的に開催し、介護予防教室や買い物、食事会や景品がもらえる抽選会などを行いました。また、学生サポーター養成研修を修了した八戸学院大学の学生１名も市高齢福祉課の実習期間だったため「八笑ウォーク」に参加していただきました。
「八笑ウォーク」については、次のページにあります別紙４とその時にデーリー東北に掲載された記事は別紙５のとおりとなります。
　続いて只今、説明させていただいた２回目のワークショップを９月 27 日火曜日に三八城地区住民を対象に開催し、三八城地区における高齢者支援の現状、課題の整理などを検討いたしました。
　続いて、ワークショップと試行的行った「八笑ウォーク」を踏まえて、10 月４日火曜日に 社会福祉法人みやぎ会が、２回目の「八笑ウォーク」を開催し、介護予防教室や買い物、食事会などを行いました。

参加された住民からは好評でありましたので、今年度は残り２回の「八笑ウォーク」を開催し、引き続き、高齢者支援センターみやぎと高齢福祉課の生活支援コーディネーターが連携して開催する予定です。

続きまして、２回目のワークショップに参加された方からのアンケート集計結果について報告させていただきます。資料２－４をご覧ください。

当日参加された 22 人のうち 18 人の方からアンケート回答の協力をいただきました。

問１　「あなたは、どちらの地区にお住まいですか。」との質問に対しては、城下・沼館各５人、内丸が４人となっており、問２の「あなたは、何歳ですか。」との質問に対しては、70 代が９人、続いて 60 代が４人となっております。

また、問３　「あなたの性別を教えてください。」との質問に対しては、女性が 13 人、男性が３人となっており、問４　「あなたが地域で行っている活動のうち最も長い活動を教えてください。」との質問に対しては、民生委員や町内会に参加され 10 年以上活動されている方が多くおられました。

問５　「ワークショップに参加した感想を教えてください。」との質問に対しては、地域関係者、学生ともに「参加してよかった。」との回答が多く、次のページに移りまして　自由記述では、地域関係者から、

・三八城地区について考える機会となり良かった。

などの意見があり、また、学生からは、

・民生委員の方との話や三八城地区の良い面や課題など貴重な体験ができた。

など前向きな意見が聞かれました。

また、問６　「ワークショップは今後も継続すべきだと思いますか。」との質問に対しては、「継続すべき」の回答が多く、自由記述では地域関係者から、

・地域で活動している人の意見を聞くことは、大事なことであるため継続して欲しい。

との意見があり、学生からは、

・世代間の交流で場となり、重要である。

との意見がありました。

問７　「ワークショップの改善点があれば教えてください。」との質問に対しては、地域関係者からは、

・どうすれば良いか決定したものは出ないけど、いろいろと考えを進めて欲しい。

・対策にもう少し突っ込んだ意見を出せる機会が欲しい。などの意見があり、次のページに移りまして、学生からは

・資料のデータの文字が小さい。

との指摘がありましたので次回から改善する予定です。

また、問８　「学生が参加したことについて思ったことを教えてください。」との質問に対しては、地域関係者からは、

・良かった。若い人にとって高齢者の現状を知ることは大切。

・まじめで好印象で頼もしい。

・若い人が入ったことで活気があった。まとめ方や発表が上手であった。

との意見があり、学生からは、

・三八城地区についての課題や地域の方の考えを知ることができた。

・明るく話し好きな人が多く、楽しかった。地域の良い意見が多くあったのが良かった。

など１回目のワークショップ開催時と同様に双方にとって有意義なワークショップになりました。

問 10　「ワークショップに参加した地域の方々は様々な活動をしています。 もし、地域の方から「協力してほしい」と言われたら、どう思いますか。」との質問に対しては、「協力したい。」「協力する方向で考えたい。」との意見がありました。

アンケート結果からワークショップを継続すべきとの意見を受けましたので今後も継続して参りたいと考えております。

以上、資料２の説明を終わらせていただきます。

■池田会長

ただ今の説明に対し、ご意見・ご質問はありませんか。

私は東公民館でのワークショップに参加させていただきましたが、その中で学生と地元の人と話す機会が今まであまりなかったと思いますが、学生の意欲がすごいと感じました。

学生が、このぐらい地域のことを考えているとか、具体的な内容に関しては今、ご説明したとおりですけれども、地元の人も学生が入ることで内面的な言葉が引き出されているのが良かったと感じました。少しずつと思いますが、ここで出た内容がこれから結びついていくと思うので定期的な開催は重要になるということが感じました。

皆様から意見やご質問はありませんでしょうか。

■橋本委員

ワークショップを開催するにあったって、どのような流れでこのような形になっていくのでしょうか。例えば、町内会の回覧板に募集をかけるとか、自分の地域で行われているのを見たことがないのでお聞きしたい。

■事務局（山口主査兼社会福祉士）

周知方法につきましては、ワークショップを開催する地区の高齢者支援センターが、民生委員の定例会に出向いたり、町内会長に相談するなど地域のポイントとなる人に周知をお願いします。このワークショップは、29 年度から 3 年かけて市内全 25 地区を２周しており、地域に出向くことによって、その地域住民からの声を聞いて地域の課題などを検討することを続けております。

■池田会長

地域に出向くことは重要ですね。地域の人からの声を聞くことは、いろんな意見が出ておもしろくなりそうですね。大橋委員はどうでしょうか。

■大橋委員

地区によって状況が違うので同じ方法はできないかもしれませんが、地区社会福祉協議会が中心となっている、ほのぼの交流事業の中で、高齢者を集めてゲームや健康に良い体操など高齢者サロンを各地区で多く開催しています。そこに学生が参加することも良いのかなと考えております。自分の地区では高齢者サロンを多く開催していますが、何回かでも学生が参加できるようになればと包括支援センターとも話をしており、これからできるようになればと思っております。

■池田会長

その意見に対して、学生に関わっている米田委員はどうでしょうか。

■米田委員

地域の方から学生にご期待をいただきまして、ありがとうございます。地域の中で頑張っている学生の姿やご意見などから確認でき、心強く思っております。今のご意見につきましては、ワークショップの研修を受けていなくとも、よろしいのであれば、例えばボランティア関連のサークルやその他に、３年生や４年生が、地域でいろいろな経験を積んでみたいと思っている学生はおります。

社会福祉系以外に養護教諭、スポーツトレーナー、保健体育の教員になる学生もおりまして、多くの学生は意欲を持っております。まずは、その地区から参加できるように情報交換や交流できるように調整したいと思います。

■大橋委員

以前、学生が民生委員活動に一緒に同行して高齢者訪問していただいたこともありました。こういうことに関心を持って、社会に出ていただければと思っています。

## （３）通いの場マップ等の作成について

■池田会長

次に、（３）通いの場マップ等の作成について、事務局より説明をお願いいたします。

■事務局（山口主査兼社会福祉士）

（３）通いの場マップ等の作成について、説明させていただきます。

お手元に資料３をご用意ください。

通いの場マップ等の作成について、昨年度から、高齢者支援センターに配置されている24人の生活支援コーディネーターと連携し、市内25地区別に通いの場マップを作成して、年に１回通いの場マップを更新しております。

市内25地区の通いの場マップのうち、別紙６、７の２地区を抜粋しております。

別紙６、７をご覧ください。

上の地図の黒の線で囲まれている所が、別紙６であれば根岸地区、別紙７であれば白銀南地区となっております。　地図の中に、番号がふられてある場所が公民館や集会所などの施設名を示しており、そこで行われている活動団体と活動内容を表示し、主に公民館自主クラブ、高齢者サロン、老人クラブ、介護予防教室などの情報を掲示しております。

通いの場マップの活用方法としましては、市包括と12か所の高齢者支援センターが所有するパソコン内に25地区の通いの場マップが保存されておりますので、各職場内で互いに通いの場マップを見ることができる仕組みとなっております。

また、住民からの通いの場について相談を受けた場合には、情報提供することができます。

また、通いの場の開催場所を見える化することで、通いの場の空白地帯が把握でき、高齢者支援センターが介護予防教室を開催する時に役立てられたり、ケアプラン作成や地域ケア会議などで通いの場の情報が必要な時に参考資料として活用されております。今後も継続していきたいと考えております。

以上、資料３の説明を終わらせていただきます。

■池田会長

通いの場マップですけれども、すごく見やすくて、地域支援するのには活用できるではと思っておりました。

ただ今の説明に対し、ご意見・ご質問はありませんか。

■中里委員

公民館で行われている自主クラブの取組についても細かくて分かりやすく、改めてマップにすることで見える化することができ、良いことだと感じておりました。

■堀内委員

コーディネーターだけでなく、町内の方にも知りたい方はいると思うので、町内全体にも周知できれば、もっといいと思う。どのように周知するのか考えることもいいことだと思います。

■池田会長

実際に行かれるのは町内の人なので、町内にこういうのがあると、今週はここで、こういうのをやっていることが分かるし、自分のエリアだと分かっても、ちょっと離れると分からないことがあるので、みなさんがこういう情報を持っているといいのかもしれないです。毎日、いろんなところに参加でき、充実した形の介護予防になると思います。

## （４）社会福祉法人等によるごみ捨て支援を普及させるための取組について

■池田会長

次に、（４）社会福祉法人等によるごみ捨て支援を普及させるための取組について、事務局より説明をお願いいたします。

■事務局（山口主査兼社会福祉士）

（４）社会福祉法人等によるごみ捨て支援を普及させるための取組について、説明させていただきます。

お手元に資料４をご用意ください。

ごみ捨て支援の概要については、自力でごみ出しをすることが困難な高齢者に代わって市内の障がい者施設、主に就労継続支援事業所の職員や利用者が、高齢者自宅から集積所までのごみ捨て支援を行っており、概要は、次の表のとおりとなっております。

今まで５つの法人からの協力を得て行っており、地区としては、主に障がい施設周辺や利用者の朝・夕の送迎ルート上でごみ回収が対応可能な場所となっております。主な対応としましては、ごみ収集日前日に高齢者宅を訪問し、ごみを施設に預かり、当日ごみを集積所に出したり、または、当日高齢者自宅を訪問し、所定の集積所に出すなどしております。

料金としては、1 回につき 100 円いただくケースが多くなっております。

実績の数としては、現在行っている世帯数をカウントし、累計の数は、これまで行った世帯数をカウントしております。

今後の取組としましては、市や高齢者支援センターの生活支援コーディネーターが、高齢者やその家族、ケアマネジャーからの相談を通じて障がい福祉サービス事業所と連携して、ごみ捨て支援を継続して推進していきます。

また、高齢者のケアプランを作成するケアマネジャーに対して社会福祉法人等によるごみ捨て支援の周知を継続して図っていきたいと考えております。

取組の効果としましては、介護保険制度によらない社会資源の開発として、介護保険外のサービスの促進や、地域の中での互助を基本とした取組を積極的に進めることとしている生活支援体制整備事業の趣旨に通ずるものがあります。

また、障がい者への就労機会の確保や社会福祉法人による地域における社会貢献にとっても期待できるものと考えております。

以上、資料４の説明を終わらせていただきます。

■池田会長

この取組ですが法人数も増えて、地域も広がってきていると思っていました。ただ今の説明に対し、ご意見・ご質問はありませんか。

■五十嵐委員

八戸市は圏域を分けて、いろんな施設を設置しているので、社会資源としては非常に使いやすいのですが、今はコロナ禍なので、なかなか地域の方と社会資源の中で触れ合うことが難しくなっております。この取組は、感染症対策をきちんと行うと感染拡大しないで社会貢献ができるので非常にいい活動だと思います。

また、着眼点としても地域の社会福祉法人が元々しなければならない社会貢献に働きかけているのでウィン・ウィンで、非常にいい活動だと思います。ぜひ今後、この活動を拡大していただいて、我々も、ぜひ協力していきたいと思います。また、協力することでその社会福祉法人の職員が地域の方々と繋がって貢献していることが実感できるし、職員

のモチベーションも上がることも考えられるので、非常によろしいかと思います。

■池田会長

ちなみに五十嵐委員の法人はどうでしょうか。

■五十嵐委員

今はコロナ禍なので、地域に出ることが難しい状況です。とくにデイサービスをやっているので感染予防が中心となっています。それでは、地域に対する姿勢が離れてしまうので、本来、社会福祉法人は貢献できるところで貢献していく性質があるので、逆に使っていただきたくて活躍の場が欲しいと考えております。

■池田会長

地域のごみ捨て問題に関してどうでしょうか。

■大橋委員

私の地域では隣近所の助け合いが非常に濃く、私が町内会長ということもあり、高齢者世帯の情報が入ってきます。私は車で町内を見回りしていますが、だいたい状態が分かります。昔からの助け合いの仕組みがある地域なので、中心街の民生委員は苦労しているだろうなと思っています。助け合いの仕組みを利用して、協力をいただきてやっていければ、本当に素晴らしいんじゃないかなと思います。

■池田会長

ありがとうございます。郊外になっている分、町全体での支え合いができているということでしょうか。

■大橋委員

私の町内では、民生委員も町内会の役員会に出るようにしています。その中で町内会役員とも情報交換できる形になっております。

■橋本委員

民生委員は定期的に一人暮らし高齢者宅を訪問しているのでしょうか

■大橋委員

高齢者の見回りすることは、民生委員活動の一つとしてやることになっております。市内の中心街のアパート暮らしでは、訪問しても戸を開けてくれないなどあるかもしれませんが、私の地域では、そういうことはあまりなく、恵まれています。

■池田会長

地域を見ているということは、それだけ活動されていることだと思います。八戸市の場合では民生委員一人に対して世帯数が多くなっているので、高齢者の見守りは難しくなっていると感じております。逆に、見守ることが必要な高齢者世帯が一定数で見ていければ可能なのかなと思いました。

社協の中里委員はどうでしょうか。

■中里委員

社協としては高齢者のごみ捨て支援はしておりませんが、何年か前にごみ捨て支援の問い合わせがありました。高齢福祉課へ確認し、当時行っていた３か所をお知らせしましたが、やっているエリアが限定されていますので、そこにニーズがあれば良かったのですが、そこが難しいなと思いました。市内には就労系の施設が多くありますので、協力していただいて全地区に広がっていければと願っております。

■大橋委員

ごみを集積所に出すことは、町内会に入っていないとできないという決まりがある地域もあるようですし、高齢者が町内会費を払えないこともあるかもしれません。

## （５）生活支援コーディネーターの変更について

■池田会長

次に、（５）生活支援コーディネーターの変更について、事務局より説明をお願いいたします。

■事務局（山口主査兼社会福祉士）

（５）生活支援コーディネーターの変更について、ご説明させていただきます。

お手元に資料５―１、資料５－２をご用意ください。

市高齢福祉課と 12 か所の高齢者支援センターに生活支援コーディネーターを配置し、高齢者の生活支援サービスの提供体制の構築に向けて、社会福祉法人等による高齢者ごみ捨て支援などの資源開発や地域の活動団体とのネットワーク構築、配食サービスなど生活支援サービスのニーズと提供サービスとのマッチングを行っていますが、その生活支援コーディネーターについて、人事異動などにより次のとおり変更がありました。

市全域を範囲とする第１層生活支援コーディネーターについては、４年度の人事異動により、こども家庭相談室から異動となった島田主査を加え、これまで２人体制から３人体制となりました。

日常生活圏域ごとに高齢者支援センターに配置している第２層生活支援コーディネーターについては、高齢者支援センター寿楽荘は社会福祉士の小田巻さん、高齢者支援センターゆとりは社会福祉士の御厩敷さん、高齢者支援センターはくじゅは社会福祉士の松田さんを各センターの法人代表者から推薦いただきました。どの職員も地域や施設などの介護保険サービスにおいて実務経験を持った方々です。

引継ぎなどにつきましては、これまでと同様に前任者からの引継ぎを行い、後任者が希望する場合については、次に記載されている研修内容を行うことを考えております。

以上、資料５の説明を終わらせていただきます。

■池田会長

ただ今の説明に対し、ご意見・ご質問はありませんか。

無いようですので、本日の案件は以上でございますが、他にご発言はございませんでしょうか。

皆様からワークショップや様々な取組などに素敵な意見をたくさんいただき、ありがとうございます。これをもちまして議事を終了し、進行を事務局へお返しいたします。

# 次第５．閉会

■司会（江渡地域包括支援センター所長）

これをもちまして、令和４年度 第１回 八戸市生活支援体制整備推進協議会を閉会いたします。

委員の皆様、本日は大変お疲れさまでした。ありがとうございました。